

令和7年度事務事業評価（令和6年度事後評価）

保健福祉部

所属名	事務事業名	ページ番号
健康づくり課	ほほえみ館管理運営事業	2
健康づくり課	新型コロナウイルスワクチン接種経費	3
健康づくり課	ほほえみ館管理運営経費（計画修繕）新規	4
健康づくり課	メートプラザ管理運営事業	5
健康づくり課	健康づくり計画策定経費	6
健康づくり課	保健センター等管理運営事業	7
健康づくり課	富士大和温泉病院事業会計繰出金	8
健康づくり課	健康教育（集団）事業	9
健康づくり課	食育推進事業	10
健康づくり課	自殺予防普及啓発事業	11
健康づくり課	健康増進事業	12
健康づくり課	がん検診事業	13
健康づくり課	歯科保健対策事業	14
健康づくり課	保健指導事業	15
健康づくり課	「いきいきさがし21」普及啓発事業	16
健康づくり課	予防接種事業	17
健康づくり課	風しん定期予防接種経費	18
健康づくり課	風しん任意予防接種経費	19
健康づくり課	食中毒等予防対策事業	20
健康づくり課	結核検診事業	21
健康づくり課	新型インフルエンザ等対策事業	22
健康づくり課	在宅当番医制運営事業	23
健康づくり課	病院群輪番制病院運営事業	24
健康づくり課	救急医療情報システム事業	25
健康づくり課	休日夜間こども診療所運営事業	26
健康づくり課	休日歯科診療所運営事業	27
健康づくり課	看護学校運営補助事業	28

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ほほえみ館管理運営事業	事業期間	平成 7 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民の健康増進及び福祉向上に寄与することを目的とし、佐賀市の地域福祉及び保健活動の拠点施設となっている、ほほえみ館（佐賀市保健福祉会館）の管理運営業務を行う。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	・開館日数 353日 ・各種保健事業の実施及び施設の維持管理。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	33,292	36,196	38,088	43,118	39,942
うち佐賀市の負担額	31,282	33,812	36,794	41,798	38,627

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
施設利用件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,041	1,700 1,229	1,700 1,205	1,700 1,216	1,700 1,274		

成果指標②						単位
施設利用人数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
26,716	57,000 33,310	57,000 30,389	57,000 34,949	57,000 36,988		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	令和6年度の利用人数は、令和5年度と比較すると増加傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と比較すると約65%にとどまっている。



今後の改善策、対応策等
WEB予約などを開始し、利用件数及び利用人数の回復を図る。また、施設竣工から約30年が経過し、老朽化による施設及び設備の修繕等が多数生じているため、施設不具合で利用制限されることがないように長期的な修繕計画を検討している。

令和6年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種経費	事業期間	令和 2 ～ 令和 6 年度
担当部署・係名	健康づくり課予防接種係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	感染症の予防	

1 事務事業の基本情報

事業概要	新型コロナウイルスの国内外の感染動向、ワクチンの効果の持続期間や科学的知見等に基づき、新型コロナウイルスワクチン接種を実施することにより、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る。 ・初回接種（1、2回目）・・・生後6か月以上 ※生後6か月～4歳については、1回目～3回目 ・追加接種（3回目以降）・・・生後6か月以上  ※令和6年度は特例臨時接種（令和5年度分）の残務にかかる業務を実施する。				
事業の対象者	生後6か月以上の佐賀市民				
根拠法令等	予防接種法				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	17,751	1,568,830	1,137,719	527,037	14,694
うち佐賀市の負担額		12,924	51,158		20

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
新型コロナワクチン接種人数（初回接種）					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
4,489	352,539	7,677	293	—		
活動実績②					単位	
新型コロナワクチン接種人数（追加接種）					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
	104,954	201,745	88,102	—		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

令和5年度は春開始接種、秋開始接種の2回の接種を行なった。  
 回数を重ねるたびに接種率は低くなってきている。  
 令和6年度は定期接種化されたため、インフルエンザ同様、接種体制の構築に努める。

令和7年度 公共事業進捗報告シート

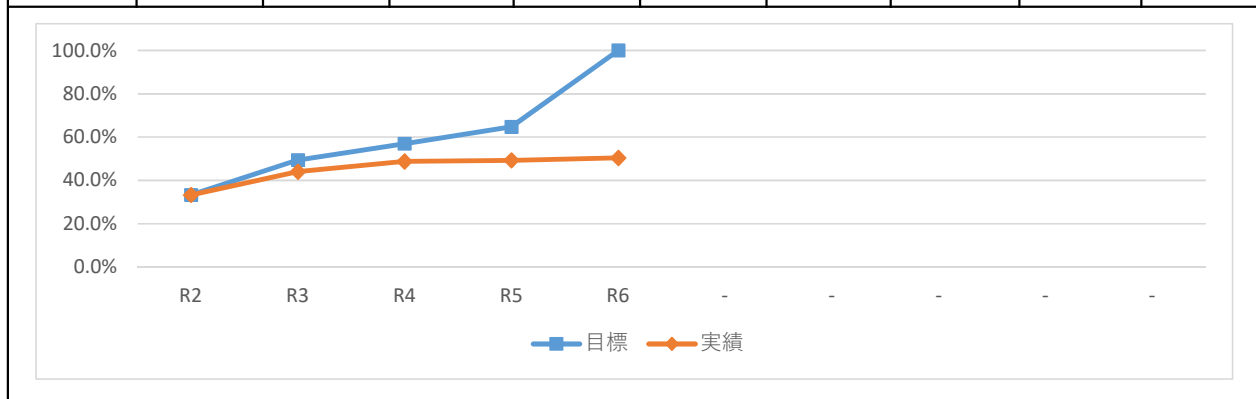
<b>公共事業名</b>	ほほえみ館管理運営事業（計画修繕）	<b>事業期間</b>	令和 2 ～ 令和 6 年度
<b>担当部署・係名</b>	健康づくり課 健康企画係	<b>担当課長名</b>	山崎 浩二
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	<b>施策</b>	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	<b>基本事業</b>	自主的な健康づくりの支援	

1 公共事業の基本情報

<b>整備概要</b>	平成6年竣工であり、老朽化しているほほえみ館（保健福祉会館）の改修を行う。				
<b>整備の目的</b>	市民の保健活動、地域福祉活動の拠点として維持していくため。				
<b>事業費決算（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
工事請負費	62,040	19,789	8,424	891	
測量・監理等委託料	1,200	776	638		2,057
用地購入費					
補償費					
その他事務費等					
<b>計</b>	63,240	20,565	9,062	891	2,057
うち佐賀市の負担	6,340	2,065	962	891	2,057
<b>区分</b>	<b>年度</b>	<b>年度</b>	<b>年度</b>	<b>年度</b>	<b>合計</b>
工事請負費					91,144
測量・監理等委託料					4,671
用地購入費					
補償費					
その他事務費等					
<b>計</b>					95,815
うち佐賀市の負担					12,315

2 事業の進捗率

目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標
R2	R3	R4	R5	R6						
実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
33.3%	49.5%	57.0%	64.8%	100.0%						
33.3%	44.1%	48.8%	49.3%	50.4%						



令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	メートプラザ管理運営事業	事業期間	平成 2 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民の健康増進と福祉向上に寄与することを目的としたメートプラザ佐賀（佐賀勤労者総合福祉センター）の管理運営を行い、施設の利用促進を図ることにより、市民の健康の増進と福祉の向上を図る。				
事業の対象者	佐賀市民				
令和6年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館日数 346日</li> <li>・（株）マベックを指定管理者として、施設の管理運営を実施した。</li> </ul>				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	25,969	23,515	25,952	24,355	24,500
うち佐賀市の負担額	22,633	23,075	25,512	23,884	24,103

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
稼働率						%
R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
49	55	70	70	70	62	

成果指標②						単位
施設利用人数						人
R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
106,435	116,425	233,591	233,591	233,591	135,466	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	令和5年度に比べると、施設の稼働率と利用者数は減少傾向にある。



今後の改善策、対応策等
令和5年度は国スポの関係で、駐車場の1/4をその期間、使用できなかったのその影響もあり、利用者数が伸びなかった。令和6年度に、利用者に対して実施したアンケート調査の結果を元に、利用者の意見をふまえた施設管理について検討し、利便性向上に努めていく。

令和7年度 事務事業実績報告シート

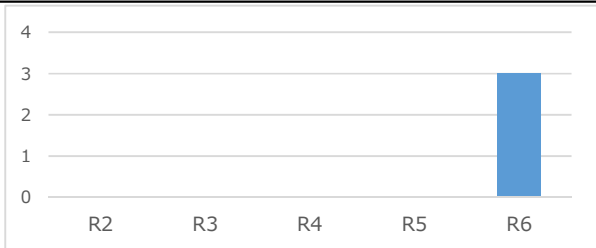
事務事業名	健康づくり計画策定	事業期間	令和 6 ~ 令和 6 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康推進係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	「第2次佐賀市健康づくり計画」が令和6年度に終了することから、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、今後12年間の健康づくりの指針となる「第3次佐賀市健康づくり計画」の策定を行う。 市政の基本方針を定めた「第3次佐賀市総合計画」の施策「日頃から取り組む健康づくりの推進」を図るための計画と位置付け、市民の生活習慣の改善及び環境整備等を図ることで、健康寿命を延伸することを目的としている。				
事業の対象者	市民				
根拠法令等	健康増進法第8条				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額					4,209
うち佐賀市の負担額					4,080

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
策定委員会の開催数					回
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	3
活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

「第2次佐賀市健康づくり計画」が終了する令和6年において、急激な少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、個々人の生活習慣の改善に加え社会環境の改善を図るため、「第3次佐賀市健康づくり計画」を策定した。  
「全ての市民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」を目指し、関係機関等と協力しながら健康寿命の延伸に取り組んでいく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	保健センター等管理運営事業	事業期間	昭和 53 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民に密着した総合的な健康づくり対策を推進し、市民の健康増進を図ることを目的として、各種健診や健康相談等を行うための施設として維持管理を行う。 【対象施設】富士保健運動センター、三瀬保健センター、久保田保健センター、東与賀保健福祉センター、川副保健センター				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	・施設の維持管理全般 ・東与賀保健福祉センター、川副保健センター及び三瀬保健センターの空調機更新工事他 ※各施設の利用人数（単位：人）				
	富士	三瀬	川副	東与賀	久保田
	714	5,215	3,279	3,970	3,065
※設備の工事に伴い施設利用ができない期間があったことから、利用人数が横ばいの施設があった。 ※令和7年4月1日 久保田保健センター廃止					
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	24,025	27,363	31,027	25,971	54,467
うち佐賀市の負担額	23,782	27,153	25,614	25,076	29,296

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
施設利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
14,770	17,000 20,648	18,000 18,393	17,000 16,013	17,000 16,243		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	空調機の更新工事に伴い、施設の利用ができない期間があった。令和6年度の利用者数は、令和5年度と比較すると増加傾向にある。



今後の改善策、対応策等
老朽化等により施設及び設備の修繕等が多数生じているため、適宜修繕等を実施し、市民が利用しやすい施設の維持管理を行っていく。

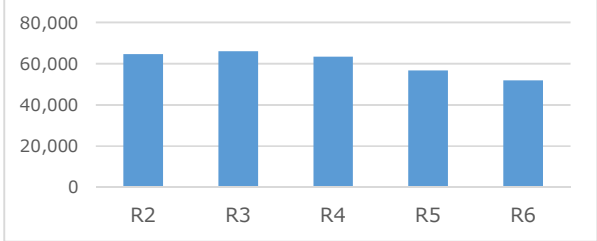
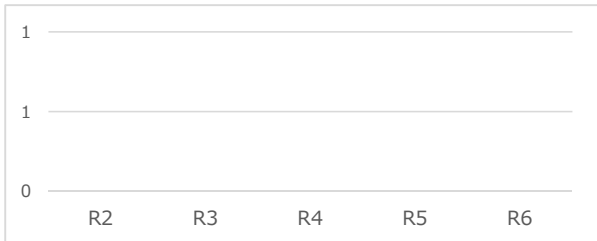
令和7年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	富士大和温泉病院事業会計繰出金	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	中山間地域の医療の充実	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市北部地域の不採算地区における基幹病院としての役割を担う富士大和温泉病院に対し、地域医療の確保という行政責任として、総務省繰出し基準等に基づく一般会計からの繰出しを行う。 ①特別交付税（不採算地区病院分） ②普通交付税（救急告示病院分、病床当たり分、企業債元利償還金分） ③企業債元利償還金分（一般財源） ④大和町上水道企業債償還負担金分 ⑤追加費用に要する経費 ⑥基礎年金拠出金公的負担に要する経費 ⑦児童手当に要する経費				
事業の対象者	富士大和温泉病院の利用者（患者）				
根拠法令等	地方公営企業法、普通交付税に関する省令、特別交付税に関する省令				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	375,462	332,013	337,262	327,711	316,132
うち佐賀市の負担額	329,578	332,013	327,759	327,711	316,132

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
病院の利用者（患者）の延べ数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
64,662	66,068	63,349	56,775	52,022		
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>今後も定められた基準に基づき繰出しを行う。 繰出金のみでは病院経営は維持できないため、企業としての経営努力が継続的に必要である。</p>
---

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	健康教育（集団）事業	事業期間	昭和 57 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康推進係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	生活習慣病の予防、健康増進など健康に関する正しい知識の普及を図ることによって、「自分の健康は自分で守る」という認識を高め、壮年期からの健康保持・増進に役立てるため、医師・保健師・管理栄養士などによる集団健康教育を実施する。				
事業の対象者	40歳以上65歳未満の佐賀市民及びその家族				
令和6年度 主な活動実績	実施回数 151回、参加者数 1201人 成人歯科保健教室、市民糖尿病予防教室、健康推進員卒後教室・育成講座、ヘルスメイト養成講座・卒後教室、健診結果説明会、ラジオ体操講習会、メンタルヘルス研修会、すらっとスッキリ運動教室、その他（自治会等）※令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策により中止や規模を縮小していたが令和4年度からはコロナ禍以前の規模に戻して実施。				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	262	172	550	704	610
うち佐賀市の負担額	130	56	550	704	610

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
特定健診受診率（前年度実績値）						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
35.8	34.2	55 33.0	60 33.5	60 32.8		

年度	実績値 (%)
R2	35.8
R3	34.2
R4	33.0
R5	33.5
R6	32.8

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	実績値
R2	0
R3	0
R4	0
R5	0
R6	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	特定健診受診率は、コロナ禍以前の数字に戻り切らず、前年と比較し低下している。過去5年間一度も受診していない者が10,000人を超えている。勧奨効果が低く、受診に繋がっていない。

今後の改善策、対応策等
引き続き市報・HP・チラシ等あらゆる媒体を活用して広報を行い、申込者の増加を図る。また、健康教育を通して「健康」に関する関心を高めるとともに、健診結果をみて、生活習慣を振り返り、改善できるよう教育のあり方を検討する。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	食育推進事業	事業期間	昭和 55 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康推進係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民が生涯にわたり健康で豊かな人間性を育むことができるよう、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践する人材を育成する「食育」を推進する。このなかで、生活習慣病予防を目的に食生活改善のための健康教育を実施したり、地域で食生活改善の推進を行う食生活改善推進員（ヘルスマイト）の養成や、地区組織である佐賀市食生活改善推進協議会の支援を行う。				
事業の対象者	佐賀市民、食生活改善推進員（ヘルスマイト）				
令和6年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の健康教室伝達会：令和6年6月～令和7年2月 開催回数180回・参加者3,353人</li> <li>・ヘルスマイト養成講座：令和6年9月～令和7年2月（全6回）修了者16人</li> <li>・ヘルスマイト卒業後教室：令和6年8月～令和6年9月（全2回）参加者32人</li> </ul>				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,902	2,252	2,538	2,578	2,373
うち佐賀市の負担額	2,345	1,333	2,517	2,547	2,342

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
食の健康教室伝達会参加者数						人
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
1,169	3,000	3,000	4,000	3,600	3,353	
	2,150	3,075	3,796			

成果指標②						単位
ヘルスマイト会員数						人
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R6 実績	
688	690	700	710	720	720	
	673	644	608		570	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	食の健康教室伝達会は、各校区での課数調整に毎年苦慮しているため、今年度より負担軽減の観点から1割減で実施。しかし、参加者の高齢化が進んでおり、目標人数達成に至らなかった。また、実施時間が調理実習を含め、3時間程必要となる。会員数は、新たに16人の新規会

今後の改善策、対応策等

より多くの市民に食の健康教室伝達会や養成講座へ参加していただけるように、また会員の増加につながるように、引き続き市報・HP・チラシ等あらゆる媒体を活用して広報を行っていく。  
令和7年度以降実施時間も含めた食の健康教室伝達会の内容の見直しを今後検討していく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

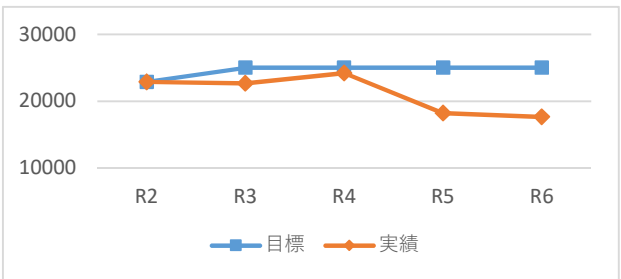
事務事業名	自殺予防普及啓発事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・健康推進係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	疾病の予防と早期発見	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	自殺の背景の一つである「うつ病」や「不眠」について正しい知識を持ち、本人および周囲の人々が悩んでいることに気づき、早期受診や相談先につなげることができるよう、こころの健康についての研修会・講話等を実施する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス研修会（ゲートキーパー養成講座）開催回数：7回 参加者数：188人</li> <li>・こころの体温計アクセス件数：17,624件</li> <li>・9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間にあわせて市報やテレビで自殺予防に関する普及啓発を行った：自殺予防キャンペーン（9月、3月）、こころのとしよかん（3月）</li> </ul>				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	3,613	2,236	1,037	1,162	955
うち佐賀市の負担額	431	534	464	792	416

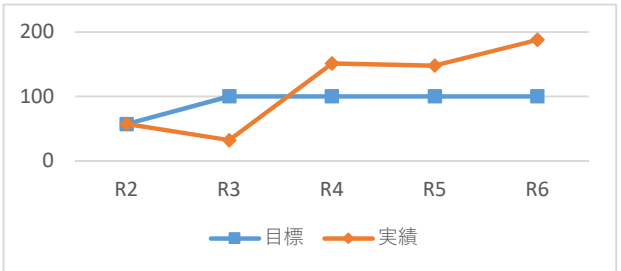
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
こころの体温計アクセス件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
22,870	25,000 22,651	25,000 24,193	25,000 18,184	25,000 17,624		



成果指標②						単位
メンタルヘルス研修会参加者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
57	100 32	100 151	100 148	100 188		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	イベントでのリーフレット配布や広報誌への掲載等を通じて「こころの体温計」の広報を行ったが、アクセス件数は前年に比べ減少傾向にある。一定数の方が既に利用を経験していることも、要因の一つと考えられる。メンタルヘルス研修会については、計画通り実施した。

↓

今後の改善策、対応策等

こころの不調に気づきかけや相談先の周知を図るため、チラシ等の配布を通じて、未周知層への広報に積極的に取り組んでいく。あわせて、ホームページ等を活用し、SNS相談窓口の普及・啓発を行っていく。  
また、事業所等を対象としたメンタルヘルス研修会の講師派遣についても、引き続き広報を実施していく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	健康増進事業	事業期間	昭和 62 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・保健予防一係、保健予防二係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	疾病の予防と早期発見	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	健康診査、肝炎ウイルス検査、30代肝疾患検診、骨粗鬆症検診を実施し、生活習慣病、肝炎ウイルス感染、骨量減少の早期発見・早期治療につなげる。 受診者が、自らの健康状態を把握することで、生活習慣病、肝がん、骨粗鬆症の予防に役立てる。				
事業の対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査：40歳以上の生活保護世帯に属する者等</li> <li>肝炎ウイルス検査：40歳以上の特定健診受診者のうち肝炎ウイルス検査未受診者</li> <li>30代肝疾患検診：30～39歳の市民</li> <li>骨粗鬆症検診：40・45・50・55・60・65・70歳の女性</li> </ul>				
令和6年度 主な活動実績	①集団健診実施回数（健康診査、肝炎ウイルス検査、30代肝疾患検診、骨粗鬆症検診） 毎日健診：月～金曜の毎日237回、土日27回 支所健診：33回 公民館健診：17回 ②受託医療機関数：特定健診123か所、骨粗鬆症検診67か所 ③広報：市報、ホームページ、自治会の班回覧や世帯配布、幼児健診での案内チラシ配布、ケーブルテレビCM放送、佐賀市健康ガイドブック				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	4,693	5,534	5,952	5,415	5,246
うち佐賀市の負担額	2,425	2,780	3,095	2,949	2,995

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
肝炎ウイルス検査受診者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
686	690 685	700 743	710 693	720 588		

成果指標②						単位
30代肝疾患検診受診者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
276	300 365	310 358	320 337	330 361		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	受診機会を幅広く設けるなど環境づくりに努めていることより、30代肝疾患検診の受診者数は概ね目標達成できている。肝炎ウイルス検査は特定健診との同時受診であるため、特定健診受診者の減少に伴い、肝炎ウイルス検査受診者数も減少傾向にある。



今後の改善策、対応策等
集団健診や個別健診など受診機会を幅広く設け、新規受診者や若い世代が受診しやすい環境づくりに努める。また、集団健診においては女性健診や託児付き健診の日を設けたり、毎月土曜や日曜に健診を行うなど受診者数の増加を図っていく。また、若い世代の検診受診率向上の取組等について、他自治体の状況を把握し、今後反映させていく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	がん検診事業	事業期間	昭和 59 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・保健予防一係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	疾病の予防と早期発見	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	各種がん検診の実施により、がんの早期発見・早期治療を推進し、がんによる死亡率を減少させる。				
事業の対象者	胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診：40歳以上男女。 乳がん検診：40歳以上の女性。 子宮がん検診：20歳以上の女性。 前立腺がん検診：50歳以上の男性で特定健診又は後期高齢者健診との同時実施。				
令和6年度 主な活動実績	集団検診実施回数：314回（毎日健診：264回、支所健診：33回、公民館健診：17回） 個別検診受託医療機関：110か所（胃・大腸・乳・子宮・前立腺がん検診） 受診勧奨（市報、ホームページ、SNS、個別通知、自治会の班回覧や世帯配布、郵便局等へのチラシ配布）				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	158,807	166,828	167,354	164,437	163,346
うち佐賀市の負担額	157,167	165,101	165,734	162,577	161,612

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
胃・肺・大腸・乳・子宮・前立腺がん検診総受診者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
41,617	45,000 42,511	45,500 42,977	46,000 41,754	46,500 40,330		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた受診者数は、令和4年度にかけて徐々に増加していたが、令和5年度から減少が続いており、目標は達成できていない。



今後の改善策、対応策等
現在、がん検診の周知・啓発や受診勧奨では、SNSを活用したり、個人通知の工夫等を検討しながら取り組んでいる。令和7年度も引き続き、広報・受診勧奨の方法等の検討・工夫を重ね受診率向上に努める。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

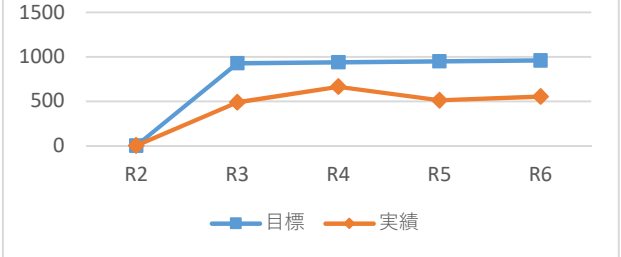
事務事業名	歯科保健対策事業	事業期間	平成 15 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・保健予防一係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	疾病の予防と早期発見	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	歯の健康を保つことにより、生活の質の向上につなげる。 歯科医師による歯と歯肉の検査及び歯科衛生士によるブラッシング指導を実施する。				
事業の対象者	20歳以上の市民				
令和6年度 主な活動実績	集団検診実施回数：70回（毎日健診：58回、支所健診：12回） 個別検診実施受託歯科機関：101か所（40歳または50歳のみを対象に実施） 受診勧奨（市報、ホームページ、個別通知、チラシ、SNS）				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	111	2,869	2,996	2,951	2,957
うち佐賀市の負担額	111	2,774	2,420	2,499	2,415

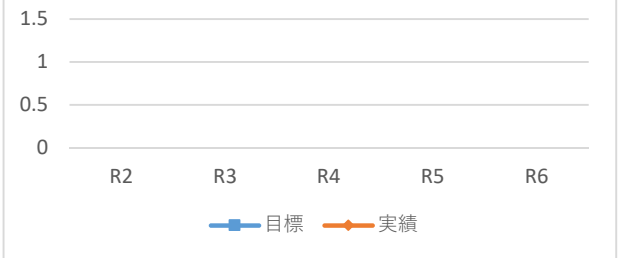
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
歯周病検診受診者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2	930 487	940 663	950 513	960 553		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	SNSや広報動画を放映し、受診する機会が少ない年齢層に歯周病検診の周知等に努めたが、成果目標までは達成できていない。



今後の改善策、対応策等
個別通知や市報等での受診勧奨により受診者の増加を図り、歯周病の早期発見・早期治療につなげる。また、SNS等を活用し若い世代からの予防や定期的な歯科検診を促し、かかりつけ歯科医をつくる環境づくりに努める。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	保健指導事業	事業期間	昭和 58 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・保健予防一係、保健予防二係他	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民の健康寿命延伸のため、主に健診結果を活用して個人に合わせた保健指導をすることで健康の保持増進を図る。 主に健診結果説明会や家庭訪問を実施し、生涯健康管理ファイルの配布も行う。				
事業の対象者	佐賀市民				
令和6年度 主な活動実績	①健診結果説明会での保健指導（年間58回：ほほえみ館45回 支所13回 公民館0回） ②家庭訪問指導（延1,745件） ③生涯健康管理ファイルの配布（858人） ④アピアランスケア支援事業[R4年度開始]（年間助成件数141件：うち医療用ウィッグ105件、乳房補整具36件） ⑤骨髄等移植ドナー支援助成金交付事業[R5年度開始]（年間助成件数：3件）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	8,379	9,041	9,679	11,423	14,550
うち佐賀市の負担額	7,305	7,967	7,572	9,327	12,273

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
健康相談件数（延）						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
4,359	4,360 4,552	4,430 4,199	4,465 3,299	4,500 3,302		

成果指標②						単位
訪問指導件数（延）						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,855	1,860 1,396	1,950 1,269	2,125 1,439	2,300 1,745		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	特定健診の受診者等が減少しているため健康相談件数は目標達成に至らなかった。来所での保健指導ができなかった対象者へは、訪問により保健指導を行っており訪問指導件数は増加している。



今後の改善策、対応策等
7年度の機構改革により、保健師が担当する校区が増え、一人あたりの保健指導の対象件数も増加している。今後も進捗管理を確実に行うことで、保健指導実施件数及び実施率の向上を目指す。また、効果的な保健指導を行うため、研修会や事例検討会等により保健師や管理栄養士のスキルアップを図り、成果の向上につなげる。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	「いきいきさがし21」普及啓発事業	事業期間	平成 14 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・健康推進係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	自主的な健康づくりの支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	いきいきさがし21（第2次佐賀市健康づくり計画）は、「全ての市民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」を基本理念とし、生活習慣病の予防、機能の維持・向上、生活習慣の改善等を行うことによって、健康寿命の延伸につなげていくことを目的としている。 当該計画に定める事業の推進に係る普及啓発を行うとともに、市民に健康づくりの輪を広げる健康推進員の育成や、市民の自発的な運動習慣の定着を目指してラジオ体操とウォーキングの推進を行う。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	HP、市報による普及啓発を行った。 健康推進員育成講座・・・令和6年10月～令和6年3月計10回開催 修了者3人 ラジオ体操講習会・・・15回開催 ウォーキングイベント・・・2回開催				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,390	1,539	1,724	1,271	505
うち佐賀市の負担額	1,390	1,539	1,724	1,271	505

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
特定健診受診率（前年度実績値）					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
35.8	34.2	55 33.0	60 33.5	60 32.8	

成果指標②					単位
健康寿命と平均寿命の差（前年度実績値）					年
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
男性1.18 女性2.47	男性1.12 女性2.61 男性1.07 女性2.52	男性1.11 女性2.60 男性1.00 女性2.38	男性1.10 女性2.59 男性0.88 女性2.21	男性1.09 女性2.58 男性0.88 女性2.18	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	健診受診者数が減少傾向にあり、特定健診受診率は目標達成に至らなかった。 健康寿命については、市民がライフステージに応じた健康習慣を習得できるようにするための施策を推進してきたことで、男女とも改善傾向がみられる。

今後の改善策、対応策等

特定健診の受診率向上のため、受診の必要性を市民に理解してもらえるよう内容を工夫するとともに未受診者・不定期受診者対策を強化する。健康寿命の延伸のため、国・県の健康プランの基本的な方向及び市の健康課題を踏まえた上で本年度中に佐賀市健康づくり計画「いきいきさがし21（第3次）」を策定する。

令和7年度 事務事業実績報告シート

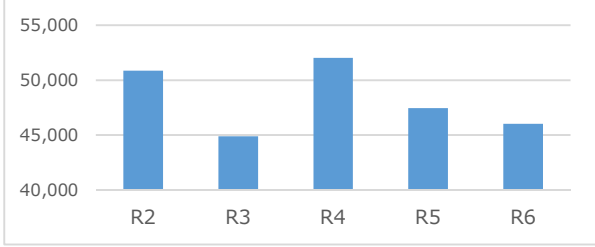
事務事業名	予防接種事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・予防接種係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	健やかに、幸せに満ちたまち	
	施策	日頃から取り組む健康づくりの推進	
	基本事業	感染症の予防	

1 事務事業の基本情報

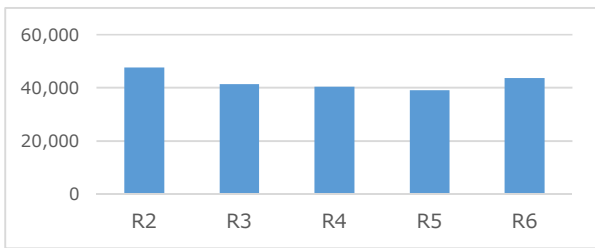
事業概要・目的	伝染の恐れがある疾病の発生及び蔓延を予防するために受託医療機関での個別予防接種を実施する。 対象疾病 ・子どもの定期予防接種・・・麻しん、風しん、日本脳炎、結核（BCG）、ポリオ、ジフテリア、百日咳、破傷風、ヒブ感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、水痘、B型肝炎、ロタウイルス感染症 ・高齢者定期予防接種・・・インフルエンザ、高齢者の肺炎球菌感染症、新型コロナ				
事業の対象者	・子ども：生後2か月から高校1年生に相当する者（種類によって対象年齢、性別は異なる。） ・HPVワクチンキャッチアップ接種：平成9年度～平成19年度生まれでこれまで予防接種をしていない女性 ・高齢者：インフルエンザ（65歳以上の者）、肺炎球菌（65歳の者）、新型コロナ（65歳以上の者）、60歳以上65歳未満で心臓・腎臓等の機能障害で身体障害者手帳1級程度の障がいがある者				
根拠法令等	予防接種法第5条（定期予防接種）				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	758,738	692,578	746,692	745,919	959,616
うち佐賀市の負担額	758,738	692,578	746,692	745,919	888,722

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
子どもの予防接種					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
50,867	44,912	52,021	47,489	46,052	



活動実績②					単位
高齢者の予防接種					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
47,655	41,377	40,376	39,041	43,635	



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

子どもの予防接種は出生数減少により接種者数は令和5年度より減少している。事業費総額は、令和6年6月の診療報酬改定により予防接種委託料が上がったこと、令和6年度から新型コロナワクチンが定期接種に追加されたこと、HPVキャッチアップ接種が最終年度であったことなどから、大幅に増加した。HPVキャッチアップ接種は令和6年度末で終了予定であったが、キャッチアップ接種期間中に1～2回まで接種をした方は、令和7年度末までに残りの接種が公費となる経過措置が設けられた。

令和7年度からは新たに带状疱疹ワクチンが定期接種となり、厚生労働省では、さらに新たな定期予防接種（RSウイルス、おたふくかぜ等）の検討をされていることから、今後も予防接種に係る費用負担増が見込まれる。

## 令和7年度 事務事業実績報告シート

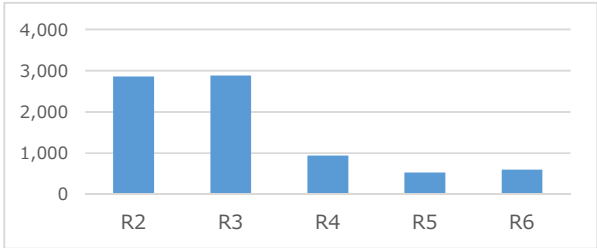
事務事業名	風しん定期予防接種経費	事業期間	平成 31 ~ 令和 6 年度
担当部署・係名	健康づくり課・予防接種係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	健やかに、幸せに満ちたまち	
	施策	日頃から取り組む健康づくりの推進	
	基本事業	感染症の予防	

### 1 事務事業の基本情報

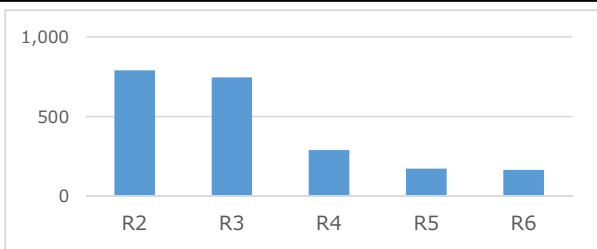
事業概要・目的	風しんの発生及びまん延の予防のために、過去に風しんの予防接種を公的に受ける機会がなかった男性を対象とした風しんの定期接種（風しん第5期予防接種）が平成31年度に追加された。対象者にクーポン券を送付し、風しん抗体検査を受けた結果十分な量の抗体がない者に対し、風しんの予防接種を実施する。				
事業の対象者	昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性のうちクーポン券未使用者 16,177名				
根拠法令等	予防接種法第5条（定期予防接種）				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	30,039	32,558	13,853	9,642	9,834
うち佐賀市の負担額	19,621	19,937	4,969	3,938	6,231

### 2 事業の活動実績

活動実績①					単位
抗体検査受検者数					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
2,859	2,882	942	536	596	



活動実績②					単位
予防接種者数					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
790	746	289	173	165	



### 3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>国の調査では、令和6年11月時点で40代後半から50代後半の成人男性の抗体保有率が88%となり、集団免疫閾値の獲得という一定の目的が達成された。そのため、令和6年度で事業を終了する予定であったが、MR（麻しん・風しん）ワクチンが一部自治体・医療機関で供給が行き届いておらず接種ができなかった者がいたことから、令和6年度までに抗体検査を実施し抗体が不十分である者に限り、令和9年3月末まで2年間、特例措置を設けることとなった。</p> <p>抗体検査については、令和6年度で終了となる。特例措置による予防接種費用については予防接種経費に組み込まれる（集約する）。</p>
---

令和7年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	風しん任意予防接種経費	事業期間	平成 31 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・予防接種係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	健やかに、幸せに満ちたまち	
	施策	日頃から取り組む健康づくりの推進	
	基本事業	感染症の予防	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	妊娠を希望する女性や妊婦の同居者の風しんのワクチン予防接種を促進することで、妊婦の風しん感染リスクを下げ、先天性風しん症候群の発生を予防し、安心して妊娠・出産できる環境を整備する。				
事業の対象者	①妊娠を希望する女性で風しん抗体価が低い者 ②風しん抗体価が低い妊婦の同居者で風しん抗体価が低い者				
根拠法令等	佐賀県風しん予防接種事業費補助金交付要綱				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	3,422	3,663	3,542	3,678	2,770
うち佐賀市の負担額	1,712	1,832	1,772	1,841	1,389

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
佐賀県風しん予防接種者数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
313	338	325	337	261		
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

令和6年度は例年と比較して接種者数が少なかったが、妊娠を希望する女性や抗体価の低い妊婦の同居者が風しんの予防接種を行うことで、先天性風しん症候群の発生及び風しんのまん延防止につながるため、引き続き、市報やホームページ等で啓発を行っていきたい。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	食中毒等予防対策事業	事業期間	平成 13 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課・健康推進係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	疾病の予防と早期発見	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	食中毒等の感染予防に心がけるよう広報等により周知を図り、食中毒の発生と感染の拡大を防止する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	食中毒事故防止対策連絡会議を設置し、関係部署で情報共有を行い、それぞれの部署において対策を行った。食中毒注意報が発令された際に、発令期間の48時間、市HPとのぼり旗の設置により注意喚起を行った。また、市報6月号で細菌性食中毒、市報12月号でウイルス性食中毒を掲載し、あわせてHPでも注意喚起を行った。補助金を交付している公益社団法人佐賀県食品衛生協会においても、予防PR活動・手洗い教室など普及啓発が行われた。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	502	500	500	314	310
うち佐賀市の負担額	502	500	500	314	310

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
食中毒発生病件数						件
R2 実績	R3 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1	0	0	0	0		
	0	3	0	3		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	食中毒が多発する時期には、市報やHPで予防行動の広報で、注意喚起をおこなったが、食中毒件数が3件に増加した。



今後の改善策、対応策等
食中毒注意報発令時の広報を、これまでどおり早急に行うことで、市民や事業者等へ素早い対応を促す。また、最高気温など気象条件等も注視しながら、適切な時期に市報やHPに掲載することで、食中毒事故防止につなげていく。

## 令和7年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	結核検診事業	事業期間	昭和 58 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 保健予防一係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	感染症の予防	

### 1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	伝染の恐れのある結核が社会的、個人的に害を及ぼすことを防止し、公衆衛生の向上を図るため、結核検診（胸部エックス線撮影）を実施する。結核検診を受診する者は、肺がん検診を同時に実施する。				
事業の対象者	65歳以上の市民				
根拠法令等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（第53条の2第3項、第53条の3）				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	7,042	8,208	9,415	9,025	9,645
うち佐賀市の負担額	7,042	8,208	9,415	9,025	9,645

### 2 事業の活動実績

<b>活動実績①</b>					<b>単位</b>	
結核検診受診者数					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
5,497	5,762	6,014	5,983	6,012		
<b>活動実績②</b>					<b>単位</b>	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

### 3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により受診者数が減少し、高齢者が受診しやすい支所や一部公民館でも実施しているが、コロナ禍以前までは戻っていない。法定の事業であり、結核の蔓延防止と早期発見のため、今後も広報等での周知や受診勧奨に取り組み受診者の増加を図る。

## 令和7年度 事務事業実績報告シート

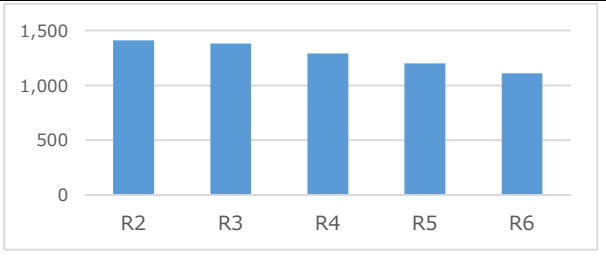
<b>事務事業名</b>	新型インフルエンザ等対策事業	<b>事業期間</b>	平成 21 ~ 年度
<b>担当部署・係名</b>	健康づくり課 健康推進係	<b>担当課長名</b>	山崎 浩二
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	<b>施策</b>	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	<b>基本事業</b>	感染症の予防	

### 1 事務事業の基本情報

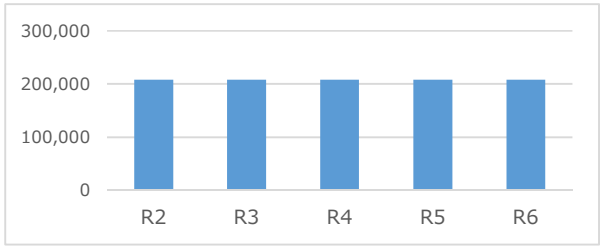
<b>事業概要・目的</b>	新型インフルエンザ等の発生時に必要な感染防護用品を備蓄するため、感染防護用品の購入・処分を行う。				
<b>事業の対象者</b>	佐賀市民、佐賀市職員				
<b>根拠法令等</b>	新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年5月11日法律第31号） 佐賀市新型インフルエンザ等対策行動計画				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業費総額</b>	14,072	3,923	289	361	345
うち佐賀市の負担額	83	308	289	361	345

### 2 事業の活動実績

活動実績①					単位
手指消毒剤備蓄量（在庫+新規購入数-供出数）					L
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
1,410	1,380	1,290	1,200	1,110	



活動実績②					単位
マスク備蓄数（在庫+新規購入数-供出数）					枚
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
208,500	208,500	208,500	208,500	208,500	



### 3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>新型インフルエンザ等対策のため、備蓄消毒液の補充を行った。今後も感染症の流行状況や供出数等から総合的に判断し、必要数を購入していく。</p>
---

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	在宅当番医制運営事業	事業期間	昭和 52 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	救急医療体制の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	日曜、祝日等の地域住民の初期救急医療を在宅当番医制度により確保するため、日曜、休日の診療を行う在宅当番医の調整事業及び在宅当番医の実施事業の実施及び地域住民に対する救急医療に関する情報提供の実施業務について委託を行う。また、これにより2次及び3次救急医療機関の軽症患者の集中を防ぎ、適切な救急医療サービスを構築する。				
事業の対象者	一般社団法人 佐賀市医師会				
令和6年度 主な活動実績	各日別在宅当番医施設数	内科	外科	眼科	耳鼻科
	日曜日、休日	3	2		
	年未年始	3	2	1	1
情報提供方法内容：テレホンサービス、各新聞記事掲載、情報誌掲載、ホームページ掲載					
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	10,750	10,746	10,749	10,762	10,759
うち佐賀市の負担額	10,750	10,746	10,749	10,762	10,759

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
延べ実施医療機関数						施設
R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	目標	実績
403	404	402	404	405	404	368
	404	383	388	368		

成果指標②						単位
受診者数（初診及び再診）						人
R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	目標	実績
7,796	7,800	7,800	7,800	7,800	7,800	13,317
	8,915	12,757	13,720	13,317		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	患者数は若干減少しているものの、患者受入については十分に対応できており、一定の成果を上げることができた。



今後の改善策、対応策等
当該事業は、日曜、祝日等の地域住民の初期救急医療を安定して確保することが重要であるため、佐賀市医師会と連携し、適切な初期救急医療体制を構築していく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	病院群輪番制病院運営事業	事業期間	昭和 54 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	救急医療体制の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	在宅当番医（初期救急医療）の後方体制として、日曜・休日・年末年始の入院（2次）救急医療体制の確保を行うため、実施医療機関に対し、当番日数に応じて補助金を交付する。また、病院群輪番制病院の設備整備に対し補助金を交付する。				
事業の対象者	佐賀市、多久市、小城市内の21医療機関				
令和6年度 主な活動実績	・病院群輪番制病院運営費補助金 日曜・休日・年末年始に各日、内科1施設、外科1施設 実施日数 72日				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	5,115	5,114	5,114	9,394	5,114
うち佐賀市の負担額	4,009	4,011	4,013	4,075	4,019

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
患者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,429	2,400 2,574	2,400 4,031	2,400 4,486	2,400 4,208		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	患者数は横ばいだが、患者受入については十分に対応できており、一定の成果を上げることができた。



今後の改善策、対応策等
当該事業は、日曜・休日・年末年始の入院（2次）救急医療を安定して確保することが重要であるため、各医療機関及び佐賀市医師会と連携し、適切な2次救急医療体制を引き続き構築していく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

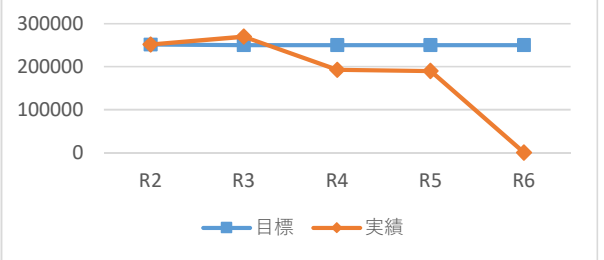
<b>事務事業名</b>	救急医療情報システム事業	<b>事業期間</b>	昭和 57 ~ 年度
<b>担当部署・係名</b>	健康づくり課 健康企画係	<b>担当課長名</b>	山崎 浩二
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	<b>施策</b>	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	<b>基本事業</b>	救急医療体制の確保	

1 事務事業の基本情報

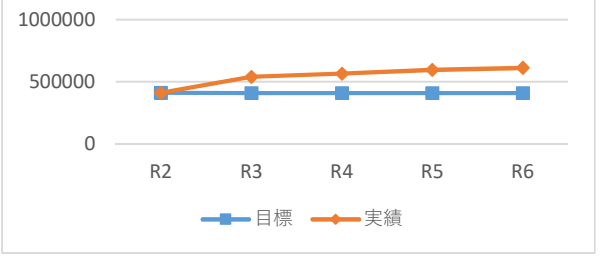
<b>事業概要・目的</b>	救急医療情報システム（ウェブサイト「99さがネット」）を閲覧し、インターネットで県内の医療機関や消防機関などと結び、救急医療や医療機関の情報を県民に提供するとともに、消防機関の円滑な患者輸送や医療機関相互の連携に活用する。住民は医療機関や薬局を探すことができる機能は令和6年4月1日から、厚生労働省が提供する全国統一システムである「医療情報ネット（ナビ）」に移行し、更なるサービスの向上が図られている。運営にかかる費用のうち、システム使用料の2/9及び広報費用等の1/3を県内市町（人口割）で負担する。				
<b>事業の対象者</b>	佐賀県民				
<b>令和6年度主な活動実績</b>	ウェブサイト「99さがネット」の広報 ・市報さが記事掲載 ・佐賀市ホームページ ・リーフレット「佐賀市休日夜間こども診療所からのお願い」に記事掲載				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業総額</b>	1,457	1,765	1,784	1,778	1,879
<b>うち佐賀市の負担額</b>	1,457	1,765	1,784	1,778	1,879

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
県民向けホームページ利用件数					件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
251,755	250,000 269,825	250,000 192,914	250,000 190,231	250,000 —	



成果指標②					単位
関係者向けメニュー利用件数（更新等件数）					件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
411,275	410,000 538,968	410,000 565,017	410,000 596,062	410,000 611,699	



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	県民向けホームページの利用件数は目標を下回ったが、関係者向けメニューの利用件数は目標を上回り、活発に利用されている。



今後の改善策、対応策等
市民が迅速かつ正確に必要なとする救急医療機関情報などを取得することができるよう広報を行い、市民への更なる周知を図る。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	休日夜間こども診療所運営事業	事業期間	平成 12 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	救急医療体制の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀中部保健医療圏（佐賀市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町）の休日の昼夜及び平日夜間における小児救急患者の初期救急医療を確保するため、佐賀市医師会を指定管理者に指定し、休日夜間こども診療所の管理運営を行っている。				
事業の対象者	佐賀中部保健医療圏（佐賀市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町）の15歳以下の住民				
令和6年度 主な活動実績	【診療日及び診療時間】○平日：20時～22時 ○土曜日：17時～22時 ○日曜・休日・12月31日～1月3日：9時～22時				
	【体制】医師1名、看護師2名、薬剤師2名、事務3名（繁忙期は増員体制） 【開所日数】364日（○平日242日 ○土曜日51日 ○日曜・休日71日） ※台風のため1日臨時休業				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	89,216	58,087	33,537	13,264	46,637
うち佐賀市の負担額	4,546	4,626	5,277	4,384	5,353

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
患者数						人
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
5,895	14,000	14,000	14,000	14,000	7,262	9,315
					12,883	10,756

成果指標②						単位
患者搬送数						件
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
176	180	180	180	180	158	167
					243	260

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	患者数について、令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが続き、4年度は受診控えは残っていたものの、各感染症流行時には受診増加となった。5年度は受診控えは落ち着き、各感染症流行時の受診増加となっている。6年度は受診者数は、コロナ禍の影響による受診控えはほとんどなくなったが、子どもの数自体が減少しているため、結果として患者数は減少した。7年度以降も出生数が減っているため、患者数は着実に減少していくと見込まれる。



今後の改善策、対応策等
令和2年から発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度及び3年度は、感染拡大防止を理由とした患者の医療機関への受診控えのため、診療報酬収入が激減した。4年度は、発熱外来対応等の診療報酬加算と検査数増加による収入増のため黒字決算となった。5年度は、患者数は持ち直したことで、インフルエンザとコロナの同時検査数が大幅に増加したことによる収入増により、診療報酬の特例の見直しがあった結果として黒字決算となった。6年度は子どもの数が減少したことによる患者数の減少と感染症検査数の激減により診療報酬収入は減少しており、また物価高の影響もあり、事業総額は増加した。今後もこの状態が続いていくと見込まれる。しかし、当該事業の必要性は明らかであり、また患者搬送数は年々増加していることから、1次小児救急としての診療所自体の意義は逆に高まっているものと考えられるため、人材配置等事業の見直しを状況に応じて随時行い、適正な運営に努め、安定した診療体制を維持していく。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	休日歯科診療所運営事業	事業期間	昭和 61 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	救急医療体制の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀中部保健医療圏（佐賀市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町）の休日等における救急歯科医療体制を確保するため、佐賀市歯科医師会を指定管理者に指定し、休日歯科診療所の管理運営を行っている。				
事業の対象者	佐賀中部保健医療圏（佐賀市、多久市、小城市、神崎市、吉野ヶ里町）の住民				
令和6年度 主な活動実績	【診療日時】日曜、休日、年末年始（12月31日から1月3日） 9時30分～16時 【体制】歯科医師1名、歯科衛生士1名、受付事務1名（繁忙期は増員体制） 【開所日数】71日				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	6,644	5,088	6,017	5,867	5,355
うち佐賀市の負担額	5,471	3,710	3,878	4,531	3,971

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
患者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
854	900 818	900 775	900 832	900 925		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	令和2年から発生した新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由とした患者の医療機関への受診控えが続いており、患者数の伸び悩みが継続していたが、令和6年度は目標を達成できた。



今後の改善策、対応策等
令和2年から発生した新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で受診控えが続き、患者数及び診療報酬収入が減少していた。徐々に戻っているが、まだコロナ禍以前の水準には戻っておらず、今後も令和6年度並みで推移していくと見込まれる。救急歯科としての当該事業の必要性は明らかであるため、人材配置等事業の見直しを状況に応じて随時行い、適正な運営に努め、安定した診療体制を維持する。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	看護学校運営補助事業	事業期間	平成 20 ~ 年度
担当部署・係名	健康づくり課 健康企画係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	17健康づくりの推進と保健・医療の連携	
	基本事業	救急医療体制の確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	多数の看護師を養成し、地域の医療機関等に輩出している佐賀市医師会立看護専門学校に対し、運営費の補助金を交付することで、地域医療の重要な担い手である看護師の不足問題の解消を図る。補助事業は、佐賀中部保健医療圏（佐賀市、多久市、小城市、神埼市、吉野ヶ里町）で取り組む。								
事業の対象者	佐賀市医師会立看護専門学校								
令和6年度 主な活動実績	課程	生徒定員			生徒数				
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
	看護専門課程（看護科）	80	80	80	240	35	52	65	152
	看護高等課程（准看護科）	80	80		160	51	52		103
	合計	160	160	80	400	86	104	65	255
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない									
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
事業総額	11,591	11,893	12,825	13,067	13,509				
うち佐賀市の負担額	8,749	8,665	9,298	9,924	10,553				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
生徒数（定員400人）						人
R2 実績	R3 目標	R3 実績	R4 目標	R4 実績	R5 目標	R6 目標
357	400	356	400	336	400	400
						255

成果指標②						単位
卒業生の内、佐賀中部保健医療圏内就職の割合						%
R2 実績	R3 目標	R3 実績	R4 目標	R4 実績	R5 目標	R6 目標
61.54	63	70.71	65	64.8	67	70
						60.53

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	生徒数は定員割れが続いており、担い手不足の抜本的解決には至っていない。また佐賀中部保健医療圏内就職の割合も達成できていない。



今後の改善策、対応策等
看護師の担い手不足が生徒数の定員割れに顕著に表れている。平成30年に施設を移転し、より充実した環境を整えたことを広報に繋げて生徒数の確保を図ると共に、卒業後の佐賀中部保健医療圏内就職率の更なる上昇のため、佐賀市医師会及び佐賀中部保健医療圏の4市1町と連携していく。